様式３　【物・文化財・風景など実体のあるもの】

ふくしまの森林文化調査カード

県 HP公開（ 可・否 ）

区分	1.森づくり　2.森の恵み　3.森と技 4.森と暮らし　5.森の文化財　6.森の風景	
分野（ふりがな）	（分野） 木工	（ふりがな） もっこう
地域独特の呼び方		
タイトル	ヘラブチ	
伝承地域	南会津地方	
由来（年代）	（いつ、どこで、誰によって起こり、どのようにして現在まで（いつまで）伝えられてきたか） 飯ベラを作ることを「ヘラブチ」という。 大正から昭和初期にかけて、桧枝岐村から只見町までの伊南川流域の村々では、盛んにヘラブチが行われていた。	
内容	（内容と共に、行事・祭りの場合は実施の時期、郷土料理の場合レシピなども） ヘラはブナを材料とし幹の枝下の節のない部分からとる。 玉切りしたものを割り鉈で割り、小さく割ったものを石油缶で煮立てると柔らかくなり、加工がしやすくなる。薄く削った板をヘラ型でくり抜きセンで仕上げる。 出来上がったヘラには、宮島、古峰原、新勝寺、三峰神社などの焼き印が押され出荷された。 伊南川流域では、ヘラのことを「宮島」と呼んでいた。	
大きさ・材質	（大きさ：緑の文化財、巨木、建造物などスケールが情報として有用なもの。	（材質）
見頃	（緑の文化財、巨木など特定の時期に見頃が訪れるもの。）	
交通アクセス		
文化財等の指定状況		
問い合わせ先	出典『伊南村史』　南会津町教育委員会	

キーワード

宮島杓子

　寛政年間(1789～1801)に、厳島神社のある宮島の島民救済のため、宮島の光明院の僧誓真(せいしん)が弁財天の持つ琵琶と形の似たしゃもじを宮島参拝の土産としたことを起こりとし、明治の日清・日露戦争時には、全国から招集された兵士が広島の宇品港から出征する際、厳島神社に無事の帰還を祈願し、「敵をめしとる」という言葉にかけてしゃもじを奉納し、故郷への土産として持ち帰ったことから、全国的に知られるようになったと言われる。

焼印　(宮島)

焼印　(古峯山)

焼印　(塩原♨)

【フリーフォーマット】※表面に記載した内容に関連したことを自由に記入してください。
活動の様子が分かる資料等があればコピーをご恵与ください。